



学校名:新潟県立高田高等学校

氏名: 蜂屋 有希子

[担当教科: 家庭]

- 実践教科等: 家庭基礎
- 時間数 : 5時間
- 対象生徒 : 高校2年生
- 対象人数 : 280人

1 単元名

持続可能な社会をめざして ～発展途上国とのつながりから考える～

2 単元の目標

・異文化に対する理解を深めるとともに日本の伝統文化のよさに気づき、見直すことができる。

【つながりを尊重する態度】

・発展途上国が抱える課題について理解し、その解決策を主体的に考え、まとめることができる。

【未来像を予測して計画を立てる力】

・異文化や他国の課題に対する互いの考えを共有し、尊重することができる。

【コミュニケーションを行う力】

・自分の価値観の変容について振り返ることを通して、発展途上国との関わり方について考え、発信することができる。

【進んで参加する態度】

3 ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性	公平性	連携性	責任性
-----	-----	-----	-----	-----	-----

・日本とザンビアの文化や価値観、生活の違いについて知る。

【多様性】

・日本とザンビアのつながりを知り、「共生することの大切さ」に気づく。

【連携性】

・ザンビアの生活課題について知り、それを解決するための方法や自分にできることについて考える。

【責任性】

4 単元の指導について

(1)教材観

「ザンビア」という国を知ることを通して、自己の暮らしの課題を見いだしたり、日本に暮らす自分の生活との共通点や相違点を考えさせたりすることをねらいとする。そのために、現地で撮影した写真や現地で購入した物を教材として多数活用する。また、すぐに答えを提示するのではなく、写真や物品の背景や意味することについて生徒自身に考えさせ、「学ぶ意欲」をかき立てよう工夫する。

(2)生徒観

日本の文化や自分の暮らしを見つめ直し、「持続可能な社会」の構築のために自分には何ができるかを考え、それを実践する態度を身に付けさせる。

(3)指導観

勤務校では「国際社会で活躍できるグローバル人材の育成」を目標の1つとして掲げている。そ

のため、「家庭基礎」の授業においては、日本に暮らす自分と他国がつながっていることを意識させるような題材を取り上げる。また、グループ単位での話し合いの時間を多く設定し、多種多様な考えがあることを実感させたい。そして、「互いに認め合う態度」も育成したい。

5 評価基準

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価基準	生活文化や生活課題について関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。	日本と他国の暮らしを知り、その中で見いだした課題の解決策を考えることができる。	持続可能な生活のために環境に配慮した生活を実践することができる。	他国との比較を通して、生活文化や生活課題について理解する。
評価方法	観察 ワークシート	ワークシート	ワークシート	発言 ワークシート 定期考査

6 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	日本の暮らしと ザンビアの暮らし 	・ザンビアと日本のつながりやザンビアの生活文化について知り、他国のことを知ろうとする意欲を高める。 実際に食べた現地食(シマなど)を紹介	・教師海外研修への参加動機、JICA の取組について ・ザンビア3択クイズ ・日本とザンビアの関わりについて ・ザンビアの暮らし(食生活、住生活、ゴミ問題)について
2	ザンビアの衣生活から日本の 伝統文化を見直す 	・ザンビアに日本が古着を送っていることやザンビアでも衣服が人々の身体を守るのに必要なことを知る。 ・ザンビアの生活に欠かせない「チテンゲ」という布の用途について知ると共に、「チテンゲ」に似ている日本の「風呂敷」について理解し、そのよさを見直す。	・衣生活における日本とザンビアの関わりやザンビアにおける衣服の機能について ・チテンゲについて ・風呂敷について
3	暮らしの中の水 ～日本とザンビア	・日頃の水の利用について振り返り、水が生活する上で欠かせないものだということ	・日常生活においてどのくらいの水を利用しているか調べる

	の水の利用～	を再認識する。 ・ザンビアでは安全な水を必ずしも手に入れることができないことを知り、安全な水が得られないことから起こる問題点について考える。 JICA の取組について紹介	・日本とザンビアの安全な水を利用する人の割合と安全な衛生施設を利用する人の割合について ・安全な水を十分に利用できない人の暮らしとそれによって起こる問題点について ・安全な水を使えるようになることどのような効果が期待できるかについて
4	次世代を担う命への責任 ～母子保健と HIV について～ 	・ザンビアの乳幼児死亡率及び妊産婦死亡率が高いこととその理由、ザンビアでは HIV の問題が深刻であり、母子保健が重要とされていることを理解する。 ・子どもの健康、女性の健康を守るためにどのような対策をとるとよいか考える。 シニア海外ボランティア紹介	・ザンビアの乳幼児死亡率と妊産婦死亡率の高さとその理由について ・日本およびザンビアの HIV とエイズの実態について ・母子保健について
5	子どもたちにふさわしい世界を	・これまで学んできた内容をふまえ、子どもの成長・発育にとって「よい環境」とはどのような環境か、そのような環境をつくるには何をすべきかについて考える。また、それを他者と共有し、自分自身の考えを深める。	・子どもの成長・発育にとって「よい環境」とは何か考えグループ内で意見を共有する。その後、クラス内で発表し共有する。 ・これまでの「ザンビア」を題材にした授業全体を通して考えたことについてまとめる。

7 授業事例の紹介

小単元名【子どもたちにふさわしい世界を】

(1) 指導案

(ア)実施日時 10月26日(月) 第5限

(イ)実施会場 被服家庭総合実習室

(ウ)本時の目標

①次世代を担う子どもの成長・発育にとって「よい環境」とはどのような環境か、考えることができる。

(思考・判断・表現)

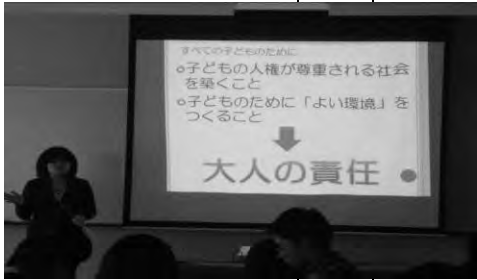
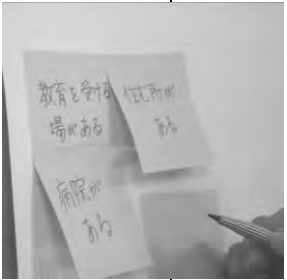
②次世代を担う子どものために「よい環境」をつくることは大人の責任であることを理解する。

(知識・理解)

(エ)指導のポイント

全員が話し合いに参加することができるように、また多種多様な意見を引き出せるように、「KJ 法的手法」で話し合いをする。

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入 5分	過酷な状況下におかれ、今なお苦しんでいる子どもがいること、次世代を担う子どものために「よい環境」をつくることは大人の責任であることを伝える。	前回までの内容を再確認するとともに本時の学習内容を理解する。	一斉	前回までの授業で使った写真等を再度提示し、授業内容を想起させる。	
展開 45分					
	次世代を担う子どもの成長・発育にとって「よい環境」とはどのような環境か	①付箋に個人の考えを記入する。 ②グループ内で個々に書いた付箋を見せ合い、考えを整理する。 ③グループ内で話し合った内容について発表する。	グループ	全員が話し合いに参加できるように、多種多様な考えが引き出せるように「KJ 法的手法」で話し合いを行う。発表は結論だけでなく、意見をまとめるまでの過程についても発表させる。	 

まとめ	次世代を担う子どもたちとの関わりについて考えをまとめよう。				
5分	これまでの授業を通して、次世代を担う子どもたちとの関わりについて考えさせる。	今後、子どもたちとどのように関わっていきたいか、自分の考えをまとめる。	一斉	これまでの学習内容を踏まえながら考えるよう伝える。	今後の子どもたちとの関わりと子どもを育てる責任について考えているか。 (ワークシート)

(2) 授業の振り返り

① よかった点

「子どもにとってよい環境」とは何かを考える際、「教育」「医療」「衣食住」「安全」等、私がザンビアを題材にした授業の中で取り上げてきた内容をふまえて記入する生徒が多かった。これは、本時の授業に取り組むまで、じっくりと時間をかけて発展途上国の現状について学んだことが生徒に定着していることの現れだと思う。

また、授業後には参観していただいた先生方より感想を伺った。「生徒の発表は、国際協力、JICA に対する理解をふまえた質の高い発表だった」、「教科指導の中に『国際理解教育』が位置づけられており、取組としても質が高い」などと評価していただいた。

② 改善すべき点

机間巡視の際、すべての班をまんべんなく見ることに意識が行きすぎてしまい、一つ一つの班をじっくり見るができなかった。そのため、生徒のいいところに気が付かないまま授業が終わってしまった。今後は、「じっくり見ることに」も留意し、いいところは全体に伝え、クラス全体に刺激を与えるような声かけをするようにしたい。

また、話し合った内容を全体で共有するために各班の代表者に発表させたが、授業時間内に全ての班が発表を終えることができなかった。このような状況にならないよう、話し合いに使用した付箋や模造紙を作業机に置いておくなどの事前準備が必要だったと思う。今後はどの授業においても時間を守り、チャイムが鳴ったと同時に授業を終えられるよう、授業計画を入念に練るようにしたい。

(3) 使用教材

・授業に使用したスライド(抜粋資料)

すべての子どものために

- 子どもの人権が尊重される社会を築くこと
- 子どものために「よい環境」をつくること

↓

大人の責任 ●

次世代を担う子どもたちのために…

考えてみよう！

- 次世代を担う子どもにとって「よい環境」とは？
- そのような環境をつくるためには何をすべきか？

・授業に使用したワークシート(おもて面)

発展活動・特別編 Part2 プリント用

子どもたちにふさわしい世界を

次 世 代 担 担 担 担

- はじめに
これまで、発展途上国に暮らす子どもたちについて学んできました。これからザンビアは、社会の一端として多くの子どもたちと関わり、子どもたちの未来を築く立場になります。今日の授業では、子どもたちが大きく育ち、成長するためにどのような「環境」が必要か、また、そのような環境をつくるためには何をすべきか、考えてもらいたいと思います。
- 活動の権利に関する条約(子どもの権利条約)
この条約は、すべての子どもが平等に生きられるよう、世界の国々が文化、伝統、法律などの違いを乗り越えて協力することを約束したものです。
また、子どもの権利とは、} 権利。

1	2
子どもの権利条約4つの柱	
3	4

- 次世代を担う子どもたちのために…
＜思考のプロセス＞
STEP1 次世代を担う子どもにとって「よい環境」とは、どのような環境か、思い浮かぶことを付箋に書く。
STEP2 グループ内で思いついた付せんを順番に、似たような考えをまとめて、グループビンゴをする。また、グループの発表しを考える。
STEP3 班別で考えた、子どもにとって「よい環境」をつくるために何をすべきか考える。
STEP4 グループで話し合った内容について、クラス全体に向けて発表する。

各々の班の発表を聞いて、「いいね!」と称賛できる部分について、以下の表に添削しよう。

1 班	4 班	7 班
2 班	5 班	8 班
3 班	6 班	9 班

(4) 参考資料等

- ・「高等学校 家庭基礎 とともに生きる・未来をつくる」 第一学習社（授業時に使用している教科書）
- ・児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）-中学生、高校生のみなさんへ-

奈良県・奈良県教育委員会

- ・日本ユニセフ協会 「子どもの権利条約 特設サイト」 <<http://unicef.or.jp/crc/>>（2015/10/11）

8 単元をととした生徒の反応/変化

ザンビアを題材に、発展途上国の現状と家庭科の学習内容を組み合わせた授業実践に取り組んだ。多くの生徒は発展途上国との関わりについて考えたり、自分の普段の生活を見直したりする機会としてこの授業に前向きに取り組んでいた。最後に、前向きな姿勢が特に見られる、2名の生徒の感想を紹介したい。

①持続可能な社会を意識した感想

「子どもたちに自分のことだけではなく、**次の世代のこと**も考えて行動することが大切だということを伝えていきたい。」

②将来の進路を意識した感想

「私は国内の恵まれない子どもたちに将来関わっていきたくて思っていたが、世界各国にも恵まれない子どもたちがいると知って、視野が広がった。**将来のことを考えるきっかけにもなった。**」

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

今回実践したザンビアを題材とした授業を通して、生徒一人一人が水不足や母子保健などの、開発途上国が抱える課題について知り、課題解決のために何をすべきか、自分には何ができるかを考えていた。グループでの意見交換も活発に行っており、互いに意見を述べ合う中で国際協力への関心が高まっていく様子が見られた。

また、「自分でも調べてみたい」、「現地に行って、自分の知っている病気の予防策を人々に伝えたい」、「将来、今回の授業で考えた改善策を実行できるような人になりたい」など、授業実践終了後の生徒の感想を読むと、今回の授業実践を通して、開発途上国の課題や国際協力の必要性を理解している者が多いと感じた。

しかし、中には5回に及ぶ授業実践の中で学習意欲が低下した生徒もあり、すべての生徒が満足する授業をすることは難しいと痛感した。今後、国際理解教育の視点を盛り込んだ家庭科の授業を実践する際は内容の精選や授業手法の改善を図り、生徒の学習意欲を高める工夫をしたい。

また、具体的な指導に関しては次のとおりである。

Plan(指導案)・・・「ザンビアを知るための授業」にならないよう、家庭科の学習目標および内容から外れることがないように留意しながら指導案を作成した。

Do(授業)・・・「6 単元の構成」に示した流れ通りに実践した。

Check(検証)・・・本授業では全時間に PowerPoint 資料を用いた。一部わかりにくい部分（字が小さい、表示の仕方が悪い等）もあったようで、戸惑う生徒も見受けられた。また、段取りが悪く、授業時間内に終わらないこともあった。

Action(改善)・・・PowerPoint 資料は生徒の反応が思わしくなかった部分を分析し、改良していった。授業時間については事前準備に時間をかけ、時間内に終われるように計画を練り直した。

10 教師海外研修に参加して

本研修では、想像以上に多くのことを学ぶことができた。例えば、発展途上国の側面は「貧困」、「水不足」だけではないこと、日本人が失いつつある「物を大切にすること」、「自ら創造すること」が心に豊かさをもたらすことなどである。そして、これらの学びを生かした授業実践に取り組むこともできた。その中で、他国のことを知ることで、自国（日本）のことも知ることができたと実感した。今後も教科指導、進路指導等、様々な場面で本研修での自分の経験を発信し続けていきたい。